

## 笑って笑って、涙もあった体育祭

校長 岡村 浩之

「Let's Smile !! 笑顔のバトンをつなげよう！」 今年度の体育祭のスローガンです。

5月25日、体育祭当日は少し肌寒い日となりましたが、応援席で待機している子どもたちのやる気に満ちた熱気で、グラウンドだけは気温も少し高いように感じます。

新潟よつば学園が開校した2年前の体育祭。子どもの安全を第一に考え、教育部門別に競技をすることを基本として、安全にできるような工夫ができるのであれば一緒に競技をすることとしました。子どもがけがをすることもなく、無事に閉会式を迎えることができました。閉会式の挨拶は、当時6年生の3人です。もう部門1人、ろう部門2人は、開校前から交流を続けた仲良し3人組です。ろう部門の2人は口話と手話で話をするとし、練習を重ねてきました。全盲の児童から、「聾学校の卒業生も多く見に来てくれるので、私も手話をします」と担任に相談がありました。そこから、担任は手話を教えてくれました。見えない児童が長い文章の手話を覚えるのは大変だったと思いますが、しっかり覚えて素晴らしい発表をしてくれました。2校の統合の意義や意味を生徒が示してくれた、そんな感動的な場面もありました。

開校3年目の体育祭。徒競走では、音源走になると応援がピタリと止まり、ゴールするまで両手を握り体が前のめりになって応援する子どもたち。全校種目の「水くみバケツレース」では、あちらこちらで「こっちだよ。」ともう部門の仲間を誘導する声が聞こえます。全員でそさこいソーランを踊り、最後の「やー。」が決まったときの達成感と安堵感が混ざった姿。カッコいい子どもたちの姿がたくさん見られました。

私は、中でも競技中の子どもたちの仲間にする応援の姿に感動しました。それは、2年間同じ場所で多くの同じ活動をしてきたので、学部や部門の子どもが入り混ざって一緒に応援している姿でした。小学1年生のYさんは、幼稚部の時からいっぱい遊んでくれた大好きな応援団長の横に陣取り、大きな声で応援しています。なんともかわいらしい姿に、周りの仲間も笑顔いっぱいになっています。優勝を逃したときには、勝ちたかったと泣きじゃくるYさんの横で団長も目に涙を浮かべていました。

閉会式が終わり観客席に目をやると、聾学校同窓会の多くの皆さんと目が合い、手話で「素晴らしい体育祭でした。」と笑顔で言っていました。笑顔のバトンがたくさんつながりました。